

千葉営業所が稼働

食品メーカーの共配基地



ヤマニヤ物流

【茨城】ヤマニヤ物流サービス（相良拓弥社長、茨城県境町）は食品の共配の拠点となる千葉営業所（千葉県臼井市）を9月26日から稼働させた。従来、千葉県内での共配は、古河共配センター（茨城県古河市）から行っており、移動時間の長さなどから拠点開設を

ナカノ商会のセンターの2階に入居

検討していた。同営業所の開設により「2024年問題」

の解決にも近づくことになり。千葉営業所は国道16号沿いにあるナカノ商会（沼澤宏社長、東京都江戸川区）の3階建て物流センターのうち、2階フロアの一部となる2650平方メートルを賃借。食品メーカー60社ほどの、千葉県内への共配基地として展開。夜間作業がメインで、庫内作業はナカノ商会に委託し、輸配送を自

社で行う。

従来、物流センターなどは自社で建設していたが、今後はエリアなどによって外部倉庫なども積極的に利用する方針に切り替えている。初の千葉県の拠点となる同営業所には大型車、中型車をメインに30台ほど配置。古河センターの既存ドライバードライバーと現地採用の新たなドライバードライバーに対応する。千葉営業所開設に伴い、古河共配センターの配送エリアは茨城、埼玉の2県のみとなる。群馬県は群馬営業所（大泉町）、栃木県は小山営業所（小山市）が対応。また、協力会社に全面委託している神奈川県及び東京都多摩地区での共配強化を目的に、1年以内に神奈川県での拠点設置を目指す。

す。一方、東京都区内での共配は、従来の協力事業者への委託を継続していく。

相良社長は「今回の千葉営業所開設を契機に、これまでの対応力中心から営業力を強化して、川上に近い分野に拡大する。ようやく芽が出始めたところで、しっかりと種まきから刈り取りを進めていく」と話す。

更に、計画しているM&A（合併・買収）について「今後、後継者問題などで企業の存続が難しくなることが見込まれる。当社としても事業の多角化を推進する方針で、いい案件があれば実施していく」と指摘する。これにより、現在の年商50億円を、3年後には70億円規模への拡大を想定している。（谷本博）